

見えない障害を理解する：
高次脳機能障害の正しい理解と支援のヒント



日常生活への影響と対応の基本3 (失語症)

国際医療福祉大学 保健医療学部 言語聴覚学科
櫻岡絵里香（言語聴覚士）



セミナーの内容

1. 高次脳機能障害とは
ー「見えない」障害を理解する
2. 日常生活への影響と対応の基本1
ー注意障害・記憶障害・遂行機能障害
3. 日常生活への影響と対応の基本2
ー社会的行動障害
4. 日常生活への影響と対応の基本3
ー失語症
5. 高次脳機能障害のある人を支える地域連携



第4回の内容

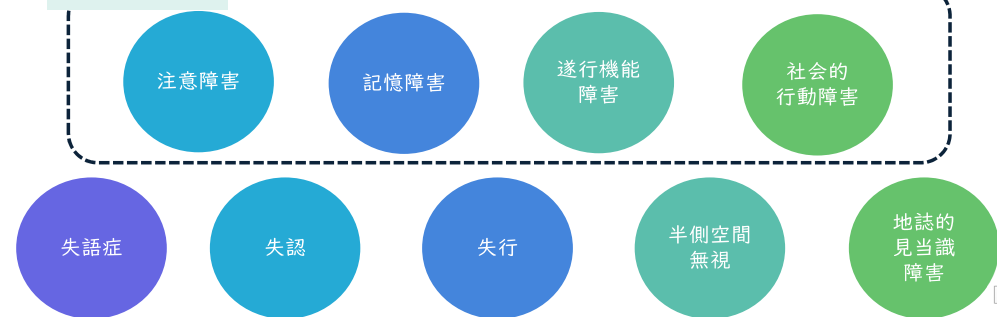
1. 高次脳機能障害の中での失語症の位置づけ
2. 失語症の正しい理解
3. より良いコミュニケーションの方法
4. 失語症者向け意思疎通支援者の役割



高次脳機能障害とは

病気や事故により、脳の特定の部位が損傷されて起こる、言語、思考、記憶、注意、感情のコントロールなどの認知機能の障害。

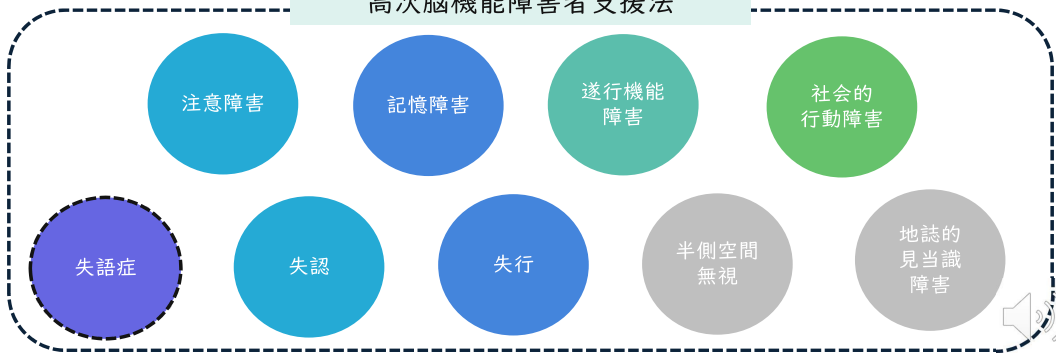
行政的定義



高次脳機能障害とは

病気や事故により、脳の特定の部位が損傷されて起こる、言語、思考、記憶、注意、感情のコントロールなどの認知機能の障害。

高次脳機能障害者支援法



失語症の正しい理解

失語症：後天的に脳の言語中枢が損傷されることで、それまで自由に使っていた「聞く」「話す」「読む」「書く」という言葉の機能が障害された状態

- 身体の障害を伴わないことも多く、他の高次脳機能障害と同じく、見た目では分からない「見えない障害」
- 保たれている能力：知的機能、状況判断、記憶などは病前と同じように保たれる

「失語症」のよくある誤解

- ✗ 言葉が出ない、言葉が分からないので、物事を考える力がない
- ✗ 心理的な要因で声が出ない（心因性の失声症）
- ✗ 耳の問題で聞こえていない（聴覚障害）

高次脳機能障害・・・脳の損傷による症状
思考、声、耳そのものは問題なし
思考を操るための道具としての「言葉」が障害された状態



聴いて理解することが難しい

- 耳から入った音（言葉）が、単語や文として意味と結びつかない（聴覚的理解の障害）
- 聴力そのものの問題ではない
- 特に、身近ではない単語、長い文、複雑な内容、早い話し方、複数人での会話が理解しにくい

音としては聞こえるけれども、言葉としては理解できない
聞きなれない外国語で話しかけられているような感覚

「聴いて理解することが難しい」の実際

- 会話において、相手の言っていることが理解しにくい
- 簡単な会話が理解できても、複数人での会話などにはついていけず、孤立感を感じる
- 病院受診の際、医師や薬剤師の指示や説明が正しく理解できない、誤って理解する
- 駅の放送や車内アナウンス（事故や遅延の情報など）が分からず、対応ができない



言葉が出てこない

- 目の前にあるものが何であるかは分かるが、その名前を正しく言えない、説明できない
 - ✓「うーん、ほら、あれ、、、」と言葉が出ない状態（喚語困難）
 - ✓誤って別の言葉や日本語にない言葉に置きかわる症状（錯語）
 - ✓「妻、、車、、」など単語が出てても文として組みたたない（失文法）
- 声がでない、発音ができないのではない

「言葉がのどまで出かかっている状態」の感覚



「言葉が出てこない」の実際

- 会話において、言いたいことが伝えられない
- 会話の輪に入れず、孤立感を感じる
- 病院などで症状を説明したり困っていることをうまく伝えられない
- レストランや買い物などでほしいものを伝えられず、外出を控えるようになる
- 話せないことでこれまでの仕事や学業が続けられない



相手の言葉を真似して言う

- 相手の言葉を真似して言うことも難しい場合がある（復唱の障害）
- 逆に、すらすらと相手の言葉を真似して言えるにも関わらず、意味を理解していないことがある

「話せること」と「理解すること」は異なるということに注意



「相手の言葉を真似して言う」の実際

- 言えるようにと思って周りの人が「真似して言ってみて」と要求すると、かえって負担となる可能性がある
- 「ご家族と一緒に来られたんですね」→「ご家族と一緒に来られたんです」と返答：一見理解しているように見えるが、オウム返しという可能性もある

コミュニケーションは「意味が伝わる」ということが何より大切



読み書きの困難

- 文字は見えても、その意味が理解しにくい（読解の障害）
- 文字を見て、声に出して読むことが難しい（音読の障害）
- 文字が思い出せない、書き誤る、文章を構成するのが難しい（書字の障害）

「話す」「聞く」の症状と同じ程度の場合もあれば、「読み書き」が得意な場合や、苦手な場合のどちらもある



読み書きの困難の実際

- 新聞や雑誌、本が読めない
- 楽しみとしての読書が制限される
- 社会の情報を入手しにくくなる
- 駅の案内表示、飲食店のメニューが読めず、1人での外出がしにくくなる
- 銀行や役所の書類に名前や住所が書けず、公的な手続きで困る
- パソコンのタイピングや、スマホのメールなどが打てなくなる
- 学習や仕事に影響する



様々な失語症

「聞く」「話す」「読む」「書く」の困難さの程度は、人それぞれ
代表的な失語症のタイプ

1. 言葉がなかなか出てこないタイプ（非流暢タイプ・ブローカ失語）
スラスラと言葉が出にくい
聴いて理解する力は比較的保たれる
2. スラスラ話すがうまく意味が伝わらない（流暢タイプ・ウェルニッケ失語）
話す量は多いが、言葉の置き換えが多く意味が伝わりにくい
聴いて理解するのが難しい



より良いコミュニケーションの方法

コミュニケーションの基本

自分と相手と2人がいて成立

コミュニケーションは双方のやりとりで成り立つ

- ✕ 子供扱い → 対等の大人同士、年齢に応じた対応
- ✕ コミュニケーションが取れない

コミュニケーションの責任は双方がお互いに分かち合う



理解をサポートする方法

- 短く、ゆっくり、簡潔に話す
- 視覚的な情報を活用する
絵、写真、図、身振り（ジェスチャー）
- 言葉とともに文字を示す
話の要点を単語、短い文で示す
漢字の方が意味が伝わりやすい

✕ やきにくていしょく

○ 焼肉定食



表出をサポートする方法

- ご本人の言葉が出るのをじっくり待つ（沈黙も大切）
- 出てきた言葉から、言いたいこと（意味）を推測する
しかし、先回りしすぎない
- 質問の仕方を工夫する
自由回答の質問「何にしますか？」は難しい
→ 選択肢を示した質問 「コーヒーと紅茶どちらですか？」
→ はい、いいえで答えられる質問 「コーヒーですか？」

✕ 50音表を指してもらう



失語症者向け意思疎通支援者の役割

失語症者向け意思疎通支援者

失語症に関する知識と意思疎通の支援技能をもつ支援者
40時間の養成研修を受講し、各都道府県に登録
2018年から地域生活支援事業の必須事業として開始

支援者の役割

第三者との会話の橋渡し、外出に同行して支援
患者会などで会話を支援（失語症友の会、失語症会話サロン）



失語症への対応

症状を理解する

- ・ 聞く、話す、復唱、読み書きの症状
- ・ 他の障害との区別

コミュニケーションの基本

- ・ コミュニケーションの責任は双方がお互いに分かち合う

具体的な方法

- ・ 理解をサポートする方法
- ・ 表出をサポートする方法
- ・ 意思疎通支援者



参考資料

1. 高次脳機能障害者支援法（令和7年法律第96号）. 2025年12月公布，2026年4月1日施行
2. 令和3年度失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修テキスト（2021）